



観光まちづくり最前線

No.1

地域を歩くレポート

すみだまち歩き博覧会 ～じえじえ、関取の手形スタンプラリー…さすが相撲文化のまち

帝京大学 経済学部 観光経営学科 大下ゼミ

観光まちづくり最前線の連載にあたって

大学の学部は文系と理系とに大きく区分され、文系ではゼミが、理系では卒論が必修となっている大学が多いようです。私たちの通う帝京大学でも3年生のゼミが必修。私たちの所属するゼミは、群馬県都市計画課が主催されているパートナーネットワーク講座の講師を努めている大下教授が担当教員です。実学を重んじている大学の教育方針の中でも、大下ゼミは地域に軸足を置いて地域と密着した観光まちづくりの最前線の取組みや地域胎動の仕掛けに関わっているゼミであり、学生はリアルタイムでの観光まちづくりの動きを現場で間近に学んでいます。

この度私たちゼミのメンバーが関わっている観光まちづくりの現場を、大学生の目線・感性でレポートするという機会をいただきました。第1回の今回は、東京スカイツリーで多くの注目が集まり話題となっている墨田区を探訪し、あまり報じられていない地域のお宝をレポートしたいと思います。

墨田区は東京スカイツリーだけではない ～両国観光まちづくりグランドデザインの策定

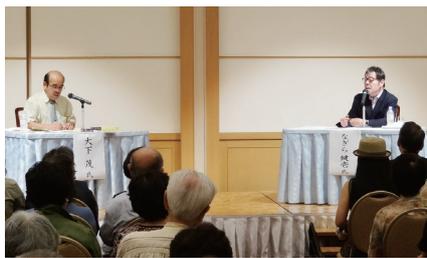
東京スカイツリーの集客効果を墨田区全体へと波及させたい～そんな思いから昨年の10月に、両国観光まちづくりグランドデザイン検討委員会が発足、4回の委員会と中間報告会、区民へのパブリックコメント等の手続きを経て、平成25年7月に計画は策定されました。

計画のコンセプトは『両国開花宣言～粋に暮らし、粋に楽しむまち両国』であり、両国地域の個性として“相撲”“葛飾北斎”“両国川開き”“ものづくり”“鎮魂と復興”等、訪れた人々が各々のテーマをもって地域めぐりを楽しめるような仕掛けを展開しようとしています。

8月3日には、計画策定の記念イベントとして、タレントのなぎら健吾さんと検討委員会の委員長を努めた大下教授とが「両国を旅する」をテーマにしたトークショーや、隅田川クルーズ等を通じて、両国の魅力を発信する取組みが始まりました。私たちゼミ生も仲間とともに、両国駅でイベントの告知をするとともに、イベントに参加、イベント参加者の平均年齢を下げることに貢献した、と評価いただきました。



墨田区の法被を着てイベントのピラ配り。貢献できたかしら…。



なぎら健吾さんと大下先生のトークショー。随所で会場内に笑いが。



当日参加したゼミメンバーで記念撮影。なぎらさんの笑顔、最高!!

すみだまち歩き博覧会の開催 ～力士の手形のスタンプラリーは両国らしさの象徴

墨田区では、東京スカイツリー開業1周年を迎えた今年度、すみだの魅力を感じたいイベントとして「すみだまち歩き博覧会」を開催しています(平成25年5月25日～平成26年3月)。

これからがスタンプラリーの体験記～まず私たちは墨田といえば、あのアサヒビールのタワーの展望喫茶において氷点下ビールで喉を潤した後に区内循環バスに乗車、東京スカイツリーをバス車内から見上げ、両国に到着。両国といたらお相撲さん。スタンプは力士の実物大の手形になっていました。コースは1～8コースまであり、コースごとに色々な名所を巡れるようになっています。観光客などに墨田を回遊して歴史や文化、食などを楽しんでもらえるためのスタンプラリーになっているのです。

私たちは、明暦の大火の鎮魂として建立され現在ではパワースポットとしても知られている回向院で最初のス



スタンプを発見、横綱・日馬富士の手形でした。顔の大きさをくらいあるスタンプにまず驚き～インクをつけマップの最終ページに押すのも一苦勞でした。その後、江島杉山神社→吉良邸裏門跡とめぐり最終的には江戸東京博物館で2個目の琴奨菊の手形スタンプをゲットしました。各スタンプの場所には手形の小さいスタンプもあり、8コース全て回って押すことができたならプレゼントに応募ができます。実際回ってみて墨田区の歴史が学べることは勉強にもなるし、観光としてもとても楽しめる内容でした。

私たちのグループは墨田区にどうしたら誘客できるかを考え、実際に商品化できるように日々考えています。こうして実際あるスタンプラリーやイベントに参加してヒントを得て新しい商品化につなげられるように頑張りたいと思いました。



スタンプ、
大きいでしょう?!
～横綱の手形を
ゲット!!



墨田区役所前からまち歩きをスタート。区内循環バスで区内をぐる～り。バス車内のシートはお相撲さん。さすが墨田・両国。車窓から見上げる東京スカイツリーは圧巻。

スカイツリーと両国をつなぐ隅田川水辺クルーズ ～江戸時代の旅人の思いを重ねて…

両国橋は隅田川に架かる橋。今年はゲリラ豪雨のため途中で中止となった隅田川花火大会。隅田川は地域にとってかけがえのない身近なお宝です。ということで、私たちは、東京都公園協会が運営する「水辺ライン」に体験乗船しました。水辺ラインは水上バスのことで、墨田区の公共交通機関の乗り物。レポート調査をした日は、国技館の向かいにある発着場から出発し、お台場海浜公園で折り返して浅草で下船しました。このコースではレインボーブリッジや両国橋など13の橋の下をくぐるので、船からしか見ることができない橋の裏側を見ることができました。レインボーブリッジの裏側は太い鉄骨と細い鉄骨がまるでアートのように、とても迫力がありました。また、船から見る特別な黄金のスカイツリーもとてもきれいでした。船に乗った際には絶対に見てもらいたいおすすめスポットです。

当日は、水辺事業部水辺ライン課で運航を担当されている西牧課長さんも同乗していただき、水辺ラインの歴史や現在の利用状況、今まで船で行ったイベントについてなど、貴重なお話を聞くことが出来ました。また、同乗したお客さんにインタビューを行いました。祝日だったため、子供連れの家族や年配の方、若い方などでとても賑わっていました。みなさんの満足度が高いことが分かりました。ボランティアガイドの方のお話も勉強になりました。

水辺ラインは、基本的に一日に定期便が3本あり臨時便も出ています。発着所はまち歩きの拠点となる場所に合計6ヶ所あり、東京スカイツリーと両国の連携ネットワークにも大きな期待がもてる交通機関になると確信しました。江戸の風流な遊びのひとつであったとされる「舟遊び」、景色を楽しみながら気持ちよく隅田川をクルーズする楽しみこそ、江戸の旅人の追体験ではないかと思いました。

冬の時期や雨の日等は客足が極端に減るとお聞きました。水辺ラインの新しい企画プログラムを提案し、墨田区の快適な地域めぐりに貢献できれば…みんなで考えて見たいと思いました。墨田区は東京スカイツリーだけではありません。ゆっくりと地域を巡ってみませんか??
(文責：平崎・尾崎・白谷・松本)



違った形の橋をしたからみると、まるで芸術作品をみるかのようなです。



ビルのガラスに映る東京スカイツリー。シャッターチャンスを見逃さないように…。



水辺ラインは浜離宮にも停船。さすが訪日外国人観光客も多く乗船されました。



水辺ラインの様々な取組をお聞きできました。ご案内をいただいた西牧さんに感謝!!

